

# 復興のために引き続き支援を

特別リポート

東北3県へ一般店復興への道のり

## ③ 11東日本大震災から1年

東日本大震災での苦難を乗り越えようと、粉骨碎身の想いで尽力している東北3県の薬局・薬店からのメッセージを紹介する。そこには大変な状況の中でも、何とか前向きに進もうとする姿が見える。

【本紙特別取材班 渡辺順太郎、杉浦定元、中村有美】

### 東北各店アンケート

15〜16面

安心して相談できる体制作り

中田薬局(岩手県釜石市)

薬剤師 中田義仁氏



震災から一年が経った

被災された方は、今で

重要事項はメモに書く

屋代薬局(福島県南相馬市)

薬剤師 屋代万起子氏

も不安を抱えていること 多いです。地域の方々の薬 局として、何でも気軽に、し、健康セミナーを開催 安心して相談できるように、触れ合う場を増や 体制を、今後も整えて していきます。

「未病先防」への対策へ

川那辺薬品(宮城県気仙沼市)

登録販売者 川那辺弘志氏



一方で、健康相談を行 うおクスリ屋さんが増少 しているのが現状。 地域の復興は、ものだ けではなく、さらに心の 復興、環境の復興が大切 だ。

ものの、再建は進んでい ないのが現状。 仮設住宅に住む方の認 知症が進んでいる心配も ある。環境の変化や、閉 鎖的であるのが、大きな 原因だと思っ。 被災された方は、今で 増えたため、当局は調剤 業務が忙しくなってい る。 一方で、学校が一部し か始まっていないこと や、放射能の心配がある ため、子どもたちがほ と心配を覚えている。

「未病先防」対策とし て、仮設住宅に住む方々 の支援や「ストレスと心 の健康」などの相談の場 として、また、癒しの場 として店内を開放。 さらに、店頭では防災 用品の展示も続けていき たいと考えている。

増えたため、当局は調剤 業務が忙しくなってい る。 一方で、学校が一部し か始まっていないこと や、放射能の心配がある ため、子どもたちがほ と心配を覚えている。

警戒区域や計